

平成20年9月30日公表

平成20年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (佐賀県)

— 水稲の作付面積は前年産に比べて4%減少の見込み
10a当たり予想収量は528kg(作況指数100)の見込み —

【調査結果の概要】

- 平成20年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む)は2万6,900haで、前年産に比べて1,200ha(4%)の減少が見込まれます。
うち、主食用作付見込面積は2万6,700haが見込まれます。
- 9月15日現在における水稲の作柄は、10a当たり予想収量528kg(作況指数100)が見込まれます。
- 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は14万1,000tが見込まれます。

第1表 作付面積及び10a当たり予想収量

区 分	作付面積 (青刈り面積 を含む) ha	前年産との比較		10a当たり 予想収量 kg	(参 考)			
		対差 ha	対比 %		主食用作付 見込面積 ha	予想収穫量 (主食用) = × t	10a当たり 平年収量 kg	作 況 指 数 = /
佐 賀 県	26 900	1 200	96	528	26 700	141 000	528	100
佐賀地帯	21 700	1 000	96	536	537	100
松浦地帯	5 280	110	98	494	492	100

注：1 青刈りには、稲発酵粗飼料(ホールクロップサイレージ)、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む)から、加工用米及び新規需要米等の面積を除いた面積(見込み)です。

3 作柄表示地帯別の主食用作付見込面積及び予想収穫量(主食用)は、作柄表示地帯別に加工用米及び新規需要米等の面積を把握していないため、「...」で示しています。

4 ラウンドのため、計と内訳は一致しないことがあります。



9月15日現在における水稲の作柄概況は、各地域の水稲の生育段階に応じて、計測可能な穂数やもみ数等の収量構成要素の実測値を基に作柄予測を行ったもので、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。

したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがあります。

【解 説】

1 作付面積

佐賀県における、平成20年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は2万6,900haで、大豆への作付転換等があったため、前年産に比べ1,200ha（4%）の減少が見込まれます。

2 作柄概況

（1）佐賀地帯

早期栽培（収穫済み）は、7月以降の高温・多照により登熟は良好となりました。普通期栽培のうち、夢しずくの穂数やもみ数は平年よりやや多く、登熟も出穂後の天候は周期的に変化しましたが、台風の襲来がなく病害虫による被害も少ないことから、概ね順調と見込まれます。

中・晩生種の穂数はヒノヒカリで平年並みからやや多い程度、ヒヨクモチは平年よりやや少ない状況となっています。全もみ数は7月下旬から8月中旬にかけて、最高気温が35℃を越す日が多かったため、高温の影響を受けやすいヒノヒカリは平年より少なく、ヒヨクモチは穂数がやや少ないことによる補償作用もあり、平年よりやや多くなりました。出穂後の天候は周期的に変化していますが、台風の襲来がなく、病害虫の発生も少ないことから、登熟は概ね順調と見込まれます。

（2）松浦地帯

早期栽培（収穫済み）は、穂数やもみ数が平年より少なかったものの、7月の好天で登熟は良好となりました。

普通期栽培のうち、夢しずくは佐賀地帯と同様に穂数、全もみ数とも平年よりやや多くなり、登熟も概ね順調と見込まれます。

ヒノヒカリは早植地帯と遅植地帯で差があるものの、穂数は平年よりやや多く、全もみ数は平年並みからやや少なくなりました。登熟は台風の襲来がなく病害虫などの被害も少ないことから、概ね順調と見込まれます。

3 被害状況

気象被害では、6月の低温・日照不足により、松浦地帯の早期栽培と県内の山間早植地帯を中心に分けつが抑制され、穂数減少の要因となりました。平坦部は7月下旬から8月中旬までの高温による影響で、主にヒノヒカリの1穂当たりもみ数が減少しました。

病害虫では、カメムシ、コブノメイガによる食害やいもち病、紋枯病なども散見されますが、被害程度は軽微となっています。

また、山間・山麓の一部でイノシシによる被害も見受けられます。

第2表 生育・作柄概況

区 分	出 穂 期					穂数の多少 (平年並み)	もみ数1穂当たり の多少 (平年並み)	全もみ数の 多少 (平年並み)	登熟の良否 (比較)	刈取済面積割合 (%)
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較						
				平年比較	前年比較					
佐 賀 県	7 21	8 26	9 10	1日遅	2日遅	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良	10
佐賀地帯	8 10	8 28	9 10	2日遅	4日遅	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良	4
松浦地帯	7 16	8 16	8 30	並み	1日遅	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良	33

4 作柄表示地帯区分



佐賀地帯

佐賀市、鳥栖市、多久市、武雄市
鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市
吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町
大町町、江北町、白石町、太良町

松浦地帯

唐津市、伊万里市、玄海町、有田町

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻調査の中の作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査期日

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 作柄概況調査：9月15日現在

3 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより取りまとめました。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより取りまとめました。

4 調査客体数

(1) 作付面積調査

標本単位区：740単位区 巡回・見積り：20市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：210筆 作況基準筆：13筆 巡回・見積り：20市町村

5 用語の解説

青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものです。なお、青刈りには、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲等を含みます。

「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

「1穂あたりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率をいいます。

10a当たり平年収量とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

6 利用上の注意

9月15日現在における水稲の作柄概況は、各地域の水稲の生育段階に応じて、計測可能な穂数やもみ数等の収量構成要素の実測値を基に作柄予測を行ったもので、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがあります。

7 出穂期の始期は、面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

【問い合わせ先】九州農政局佐賀農政事務所 統計部
生産流通消費統計課
TEL 0952(26)1313
FAX 0952(29)6564

この資料は九州農政局佐賀農政事務所ホームページ
【<http://www.maff.go.jp/kyusyu/saga/index.html>】でご覧いただけます。